まなびや
Designed by Yoshida
校内研究広報部
No2

【研究主題】
互いに認め合い、高め合う学校づくり
～道徳科における自己肯定感を高める指導を通して～

9月30日(水)に、今年度の第1回研究授業が2年1組の鈴木主任教諭の学級で行われました。3密を避けるために、授業は体育館で実施しました。教材は「およげないりすさん」、「友情、信頼」の価値項目で授業が行われました。

「およげないりすさん」は、りす・かめ・あひる・白鳥が登場します。ある日、泳げないりすを一人ぼっちにして、かめたちは池の中にある島へ遊びに行きます。しかし、かめたちはりすを置いていったことにより、楽しく遊ぶことができません。そこで、りすと一緒に島へ行ける方法を考え、ともに島へ向かうというお話です。

このお話に出てくる登場人物のように、低学年の児童は、友達の気持ちを考えず、自分のしたい気持ちを優先させて行動してしまうことはよくあります。かめたちがりすの気持ちを考え、みんなで一緒に島へ向かう時の気持ちなどを考えさせることを通して、相手の気持ちになって、助け合って仲よく行動することの大切さを考えさせました。

子供たちの自己肯定感を高めるために、①ペアによる話合い活動②役割演技(登場人物になりきって演技し、そのときの心情を考える活動)③授業のめあてを自分のこととして考えられるような発問の設定、以上3点の工夫を取り入れた授業でした。

授業後の協議会では、年間講師としてお世話になっている、明星大学教育学部教授濱野裕美先生から、指導・講評をいただきました。まず、自己肯定感は、児童個々の力量や努力が他者から温かく受け入れられるという、他者との豊かな関係性の中で生まれることについて教えていただきました。温かく愛着のある集団によって自己肯定感があるクラスが形成されます。「お友達の考えのよさを見つけよう。」という視点を与えたり、「伝えたい」という意欲を高める工夫をしたりすることで、安心して発言できる環境と場が設定されます。

次に、道徳の教材提示(お話の読み聞かせ等)の大切さについてのお話がありました。道徳は、国語の読み取りとは違い、登場人物の気持ちを自分事として考えていくものです。そのために、教材の世界へ引き込み、子供を教材の中に入り込ませることが大切になります。学年に関わらず、教材提示で道徳の授業の成功が 80%決まるとのことでした。

次回の研究授業は3学期になりますが、今回の研究授業で学んだことを日々の授業実践で生かして参ります。

【大久野タイムの取組】

昨年度から、ソーシャルスキルの獲得をねらって、朝の時間に「大久野タイム」の取組をしています。ソーシャルスキルとは、社会の中で他人と関わり、ともに生活していくために必要な能力のことです。これは、今年度の校内研究主題を達成するための3つ視点の1つでもあります。11月13日(金)の朝は、「聞き方名人・話し方名人」をテーマに大久野タイムを行いました。学校生活に限らず、人と関わる上で聞くことと、話すことは欠かせないことです。聞く時や話す時に大切にしたいことを、「聞き方あいうえお」「話し方かきくけこ」の合言葉にして学習しました。合言葉の一つ一つを、日々の学校生活で実践していきながら、子供たちがソーシャルスキルを身に付けられるように取り組んで参ります。